

水産業を通じて、誰もが活躍できる社会へ

はじめよう！

すい ふく れん けい

水福連携

水福連携とは、水産業と福祉が連携し、障害のある人をはじめとする多様な人たちが水産業分野で活躍することを通じて、水産業の発展とともに、自信や生きがいをもって社会参画することを実現する取組です。



水産業(水産事業者)の 現状と課題

- 就業者の減少
- 慢性的な担い手不足
- 高齢化の進展
- 地道な作業を行うことが多い など



作業をお願いしたい！

福祉(障害者就労施設)の 現状と課題

- 利用者の就労・生産活動の機会が欲しい
- 利用者の賃金・工賃を向上したい
- 利用者の社会との繋がりを確保したい など



利用者に
仕事を見つけない！



マッチング

水産庁

問合せ先
水産庁 企画課労働安全・デジタル班
☎ 03-3592-0731

詳しくは水産庁ウェブページを確認！▶
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/suihuku.html>



水福連携を始めたいと思ったら

水産事業者の方

- 地方自治体の福祉部局や農林水産部局に相談する
- 近隣のハローワークに相談する
- 障害者就職面接会に参加する
- 特別支援学校の職場実習を受け入れる
- 近隣の障害者就労施設へ訪問する
- 共同受注窓口※を利用する



障害者就労施設などの方

- 地方自治体の福祉部局や農林水産部局に相談する
- 道府県の普及指導室や近隣の漁業協同組合に相談する
- 共同受注窓口※を利用する



※ 共同受注窓口とは、企業等が発注したい物品や役務の内容を、受注が可能な障害者就労施設にあっせん・仲介する窓口

雇用・契約までの流れ

01 相談

地方自治体の担当窓口や共同受注窓口などに相談

02 試行

試行的に雇用、作業請負を実施する

03 正式契約・雇用

正式に契約を行い、水産事業者は雇用を開始

水福連携の事例

事例1

漁具の解体作業 [神奈川県]

- 漁師が漁で使用した漁具(魚や海老の刺網)を解体する作業を実施
- 水産事業者は、解体してもらった刺網のパーツを再利用できる
- 障害者就労施設は、施設内で作業ができるため天候に左右されずに作業を行うことができる

刺網の解体(ばらし)作業の様子



事例2

カキ養殖用具の制作など [三重県]

- カキ養殖の種苗採取に用いるコレクターの作製作業や、カキ養殖用ロープの釘抜き作業を実施
- 令和5年度には障害者就労施設における作業量が平成28年度比で45倍に増加し、工賃単価も上昇

カキ天然採苗用コレクター作製作業の様子



水福連携の推進

検索

都道府県の水福連携担当窓口など
詳しくは水産庁ウェブページを確認！▶
<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/suihuku.html>

